

『看護教育のためのパフォーマンス評価
ルーブリック作成からカリキュラム設計へ』教育評価の理論と実践例が
往還し、「洗練した理解」を
導いてくれる良書著：糸賀暢子，元田貴子，西岡加名恵／定価：本体 2,700 円＋税
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657

本書は、「看護学生に〇〇できる看護師になってほしい」という、めざしたい姿をルーブリック評価で描き、そこから教授-学習方法を選び、そしてカリキュラムを設計していくという「逆向き設計」論の実践本である。

筆者自身も 20 数年間、カリキュラム設計、教育目標、教育方法の探究、開発に取り組んできた。そして最近、教育評価、特に看護実践能力などパフォーマンス評価を可能にするルーブリックに関心をもち、取り組んでいるところである。そのなかで気づいたのは、ルーブリックづくりを考えるうえで、カリキュラムの主要概念、教育目標と教育方法、教育評価がすべてシンプルにつながっていることが大切ということである。しかし、この気づきを支持する成書は世になかった。ちなみに本書のもとになった本誌の 2010 年 12 月の特集号を当時読んで大いに参考にさせていただいてはいたが、実践例としては興味深かったものの、理論的説明が十分とはいえず、評価の意義が伝わりにくかった印象が残っている。それが今回、本書を読み、大いに感銘を受けた。第 1 章と 8 章で教育学の専門家である西岡加名恵先生が「逆向き設計」論の基礎からパフォーマンス評価とルーブリックの基礎を理論的に解説していること、そして第 2 章から 7 章まで、糸賀暢子先生、元田貴子先生を中心とするあじさい看護福祉専門学校全体

での実践例が豊富に紹介されているところにある。第 8 章や付録では一貫した教育実践例をとおしての解説や Q & A まだが掲載されている。教育評価の理論と実践例とが行きつ戻りつ往還して紹介されているために、とても理解しやすいのである。

筆者が特に推薦したいところは、第 1 章で教育評価の歴史的背景がわかりやすく紹介されているところであり、それによりなぜ今パフォーマンス評価、ルーブリックなのかがあらためて理解できた。第 2 章で紹介されている、「逆向き設計」論にもとづく入学時オリエンテーションやガイダンスは、これも筆者が自校で取り組んでいる「初年次教育」の考え方と合致しており納得がいくとともに、「初年次教育」のルーブリックでの評価を行っていなかったのも、今後は取り入れなくてはと反省した。その他の章でも講義、演習、実習、そしてカリキュラム設計の実際が常に実践例から述べられているのでわかりやすく、われわれ教員の取り組みに多くのヒントをもらうことができる。

最後に、本書ではウィキンズによる「素朴な理解」から「洗練された理解」に至る学習者の発展が紹介されている(16 頁)。本書を読み終わったとき、筆者がパフォーマンス評価やルーブリックについて「洗練された理解」ができたといううれしい実感をもてたことは言うまでもない。